

令和2年度 第1回大磯町総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和2年6月29日(月)
開会時間 午前10時00分
閉会時間 午前11時30分
2. 場 所 大磯町保健センター 1階保健指導室
3. 構成員 中 崎 久 雄 町長
野 島 健 二 教育長
曾 田 成 則 教育長職務代理
長 嶋 徹 教育委員
トーリー 二 葉 教育委員
濱 谷 海 八 教育委員
4. 事務局 森 田 敏 幾 参事(政策担当)
藤 本 道 成 政策課長
宮 代 雅 之 政策課政策係長
富 塚 恵理子 政策課主任主事
大 槻 直 行 教育部長
宮 代 千 秋 学校教育課長
添 田 健 学校教育課主幹兼教育指導係長
海 保 岳 学校教育課副主幹
5. 傍聴人 6人

6. 議 題

協議事項

- (1) コミュニティ・スクールの研究・検討に向けた取りまとめについて
- (2) 小学校高学年における「教科担任制」の導入について
- (3) 児童生徒の事故等の状況について【非公開】

※ 協議事項「(3) 児童生徒の事故等の状況について」は非公開にて協議を行ったため、議事録を削除しています。

7. 会議概要

【開会】

政策係長) ただ今から、令和2年度第1回大磯町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、政策総務部政策課の宮代と申します。よろしくお願いいたします。

総合教育会議は、原則、公開での開催となります。ただし、本日の協議事項(3)「児童生徒の事故等の状況について」につきましても、個人情報等の保護の観点から、非公開とさせていただきます。協議事項(2)「小学校高学年における教科担任制の導入について」の協議が終了し次第、傍聴されている皆さんにつきましても、退出していただきますので、あらかじめご了承願います。

それでは始めに、中崎町長からご挨拶申し上げます。中崎町長、よろしくお願いいたします。

【中崎町長挨拶】

中崎町長) おはようございます。

本日は、お忙しい中、令和2年度第1回大磯町総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。会議に先立ちまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、5月25日をもって神奈川県緊急事態宣言も解除されました。大磯町としても緊急事態宣言が発令されて以来、外出の自粛やマスクの着用、また、手洗いやうがいの励行などを周知し、感染症の拡大防止と事態の収束に向けて町民の皆さんに訴え続けてまいりました。この事態の影響を受けてお困りの方々に対しまして、「感染症の拡大防止と町民の皆さんの健康維持」、「町民の皆さんの安定的な生活の確保」、また、「町内事業者の皆さんの経済活動の維持」を柱とした「緊急経済対策」を取りまとめ、現在、取組みを進めているところです。緊急事態宣言が解除されましたが、新型コロナウイルス感染症は従来の感染症とは異なり、今後も拡大へつながる可能性は十分にあります。町民の皆さんに対しても、また、子どもたちに対しても教育委員会と連携を図りながら、しっかりと支援をしてまいります。そのような状況ではありますが、本日は協議を進めてまいりますのでご理解いただきたいと思います。

さて、本日の総合教育会議は、令和2年度の第1回目の会議となります。今年度の総合教育会議においては、小学校において新しい学習指導要領がスタートしたことや、国、文部科学省の動向などを踏まえまして、「小学校高学年における教科担任制の導入について」をテーマとしました。新学習指導要領による外国語教育やプログラミング教育などの導入により、教員の皆さんには今まで以上に専門的な知識が求められています。それをどのように補っていくのかということが課題でありまして、その一つの切り口として、より専門性の高い教科担任制の導入についても考えていかなければなりません。

本日は、このテーマに関しての皆さんのご意見、また、皆さんの想いを聞かせていただきまして、新しい教育の理念として進めてまいります。また、昨年度、協議していただき

ました「コミュニティ・スクール」に関しては、皆さんからいただきましたご意見を取りまとめて、教育委員会へ示していくことになっています。昨年いただいた皆さんの意見を事務局で取りまとめましたので、そちらに関してもご意見をいただければと考えています。

本日のテーマである教科担任制については、画一的なものではなく、「地域の中に学校はある」というこれまで皆さんと協議してきました考え方を念頭に置いていただき、地域との連携、今回の場合は、小学校と中学校との連携というものもあると思います。小学校だけではなく、少し大きな枠組みの中で協議していただければと思います。

本日は短い時間ではありますが、効率よく有意義な会議となりますようご協力をお願いいたします。

政策係長) 中崎町長、ありがとうございました。

それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行は、大磯町総合教育会議要綱第4条第1項の規定により「町長が議長となる」とされていますので、議事の進行につきましては、中崎町長にお願いしたいと思います。

中崎町長、よろしくお願ひいたします。

【協議事項(1) コミュニティ・スクールの研究・検討に向けた取りまとめについて】

中崎町長) 議長を務めさせていただきます。議事が円滑に進むよう、皆さんのご協力をお願いします。それでは、会議次第に基づき進めてまいります。

まず、事務局から「昨年度の総合教育会議での協議内容の振返り」と「本日の総合教育会議における協議の内容」について、資料を用意していますので、簡単に説明させていただきます。その後、協議事項に入りたいと思います。

事務局、よろしくお願ひします。

政策課長) 政策課の藤本です。よろしくお願ひいたします。

それでは、資料に基づき、令和元年度の総合教育会議の振返りと、本日の協議内容を説明させていただきます。前方のパワーポイントで説明をさせていただきます。お手元には、パワーポイントと同じ資料を用意させていただきましたので、どちらかをご覧いただきたいと思います。

まず、昨年度、令和元年度の総合教育会議の振返りです。

令和元年度の総合教育会議においては、「地域と学校との関わり方について」をテーマとして、コミュニティ・スクールの取組みについて皆さんに協議していただき、ご意見をいただきました。コミュニティ・スクールにつきましては、平成28年度から平成30年度までの3年間で「信頼関係による学校づくりの実現」についての中で協議していただき、それぞれの取組みを短期的、中期的、長期的な取組みに整理しました。その中で「コミュニティ・スクールの研究・検討」が長期的な取組みに位置付けられたこと、そして、平成30年度に改訂いたしました「大磯町教育大綱」の中に「地域との連携」という言葉が新たに追

加されたこと、また、教育委員会におけるコミュニティ・スクールの検討・研究が開始されたこと、これらを踏まえまして、令和元年度は「地域と学校との関わり方について」をテーマとして、コミュニティ・スクールについて皆さんに協議していただきました。

そして、皆さんからいただきましたご意見やご提案については、事務局で取りまとめ教育委員会へ示していくことになっています。

皆さんからいただきましたご意見、ご提案につきましては、「子どもたちが主役で顔が見えるコミュニティ・スクール」、「安全・安心なコミュニティ・スクール」、「様々な体験や経験ができるコミュニティ・スクール」、「大磯町独自のコミュニティ・スクール」、「学校と密接に関わるコミュニティ・スクール」、「誰もが知っているコミュニティ・スクール」の6つの項目に整理させていただきました。後ほど、議題（1）の「コミュニティ・スクールの研究・検討に向けた取りまとめについて」においてご確認いただき、皆さんの了解をいただきまして、今後のコミュニティ・スクールの研究・検討の参考としていただくため、教育委員会へ示していきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

以上が、令和元年度の振り返りとなります。

それでは、令和2年度のテーマと協議内容についてです。

今年度から、小学校において新たな学習指導要領がスタートし、外国語教育やプログラミング教育が新たに組み込まれ、これまで以上に専門的な教育が求められるようになりつつあります。また、文部科学省において教科担任制の導入に向けた検討が進められていることもあり、令和2年度の総合教育会議では、「小学校高学年における教科担任制の導入について」をテーマとして、皆さんには協議していただきたいと考えています。

それでは、まず、教科担任制に向けた背景や国の動き、また、教科担任制のメリット・デメリットなどについて簡単に説明いたします。

教科担任制導入に向けた背景につきましては、先ほども少し触れましたが、小学校において新たな学習指導要領がスタートし、外国語教育やプログラミング教育といったより高い専門性が求められつつあること、また、昨今の教員の働き方改革による教員の負担軽減や、児童の学力の向上に向けた授業の質の向上が求められていること、さらに、中一ギャップという課題もあり、小学校のうちから教科担任制に慣れ親しんでもらうことで中一ギャップという課題を解決していこうという動き、また、もう少し大きく捉えまして、義務教育9年間を見通した教育課程の在り方や、小中一貫教育の導入に向けた検討も進められているところです。

次に、教科担任制における国などの動きにつきましては、平成31年4月に文部科学大臣が中央教育審議会へ諮問しました「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の中に、教科担任制についても触れられています。そして、令和元年12月に中央教育審議会の初等中等教育分科会により取りまとめられた「新しい時代の初等中等教育の在り方論点取りまとめ」において、「令和4年度を目途に小学校高学年からの教科担任制を本格的に導入すべき」ということが示されています。

次に、教科担任制を導入した場合のメリットとデメリットです。

まず、教科担任制のメリットにつきましては、教員がその教科に特化することができますので、教材研究の深化や授業の準備が効率化されることにより、教科指導の専門性が高まり、そのことにより授業の質の向上が図られます。それと同時に、児童の学力の向上につながることも期待できますし、教員の負担軽減というメリットもあります。

その一方で、デメリットといたしましては、デメリットというよりは課題と捉えた方が良くかもしれませんが、教員の質・能力のさらなる向上が必要であるとともに、教員の量的な確保とそれに伴う財政措置が必要となります。

また、学級担任制と異なり児童と関わる時間が減ることから、児童の実態の把握が難しくなることや、授業時間が不足した場合など他の教科の時間に振り替えるといった弾力的な運用が難しくなることも、デメリットとして挙げられます。

次に、全国の小学校高学年における教科担任制の導入状況です。少し古くなりますが、平成30年度の調査結果においては、書写や理科、音楽、図画工作、家庭科、そして外国語といった専門性の高い教科での導入が進みつつあるという状況です。

それでは、大磯町の小学校での状況ですが、大磯小学校、国府小学校ともに導入に向けて積極的に研究を進めている状況にあります。

まず、大磯小学校では、来年度以降の導入に向けて前向きに研究を進めており、今年度の2学期以降は高学年の交換授業の実施を予定しています。一方、国府小学校においては、既に4年生、5年生、6年生において、社会科、理科、家庭科、書写において交換授業を実施しており、教科担任制に向けた取組みが進められているところです。

以上が、大磯町の小学校における状況となります。

それでは、本日の総合教育会議ですが、ただ今説明いたしました現時点における教科担任制の状況などを踏まえていただき、導入に向けての問題点や課題、また、それらを解決するための方策、そして、これら以外にもいろいろなご意見、また、皆さんの想いというものもあろうかと思しますので、皆さんのお立場から率直なご意見をいただければと思います。

そして、本日のテーマを考えていくうえでも、学校、家庭、地域という3者の関係を意識して取り組む必要があるのではないかと考えています。前回、また、前々回のテーマとも通じることになりますが、学校、家庭、地域の関係が、学校と家庭が地域の中にあるという意識を持った中で、今回の協議も進めていければと考えています。

簡単ではありますが、前回の総合教育会議の振返りと本日の協議内容についての説明は以上です。

中崎町長) 事務局、ありがとうございました。

それでは、次第にあります3の協議事項(1)「コミュニティ・スクールの研究・検討に向けた取りまとめについて」に入らせていただきます。

事務局から、資料の説明をよろしくお願いします。

政策課長) 政策課の藤本です。引き続き、私から説明いたします。

それでは、お手元の資料1「大磯町における学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の研究・検討に向けた取りまとめについて(案)」をご覧ください。

こちらの資料につきましては、先ほど申し上げましたとおり、昨年度に「地域と学校との関わり方について」をテーマとして協議していただきましたコミュニティ・スクールにつきまして、皆さんに協議していただきましたご意見やご提案を事務局で取りまとめたものです。皆さんからいただきましたご意見、ご提案については、「子どもたちが主役で顔が見えるコミュニティ・スクール」、「安全・安心なコミュニティ・スクール」、「様々な体験や経験ができるコミュニティ・スクール」、「大磯町独自のコミュニティ・スクール」、「学校と密接に関わるコミュニティ・スクール」、「誰もが知っているコミュニティ・スクール」の6つの項目に整理させていただきました。

この内容で皆さんにご了解をいただければ(案)を取らせていただき、教育委員会へ提出させていただければと思っています。ご質問も含めまして、この後、ご意見などがあればいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

説明は以上です。

中崎町長) 事務局、ありがとうございました。

令和元年度の総合教育会議においては、「地域と学校との関わり方について」をテーマに、皆さんに協議していただきました。

前回の総合教育会議の内容の振返りのところで事務局から説明がありましたが、一昨年の平成30年度の総合教育会議において、コミュニティ・スクールの研究・検討が長期的な取組みに位置付けられたこと、新たな「大磯町教育大綱」の中に「地域との連携」という言葉が追加されたこと、また、教育委員会におけるコミュニティ・スクールの研究・検討がスタートしたこと、このような背景もあり、昨年度は「コミュニティ・スクール」について皆さんに様々なご意見やご提案をいただきました。

そして、皆さんのご意見やご提案を取りまとめたものを教育委員会へ示し、今後取組みを進めていただくこととなっています。皆さんのご意見やご提案を取りまとめたものが、ただ今、事務局から説明のあった資料1となります。

そこで今日は、まず、取りまとめました資料1について、ご意見等があればお願いしたいと思っております。

野島教育長) 資料1では6項目にまとまっており、この案については賛成です。

今年は3月から新型コロナウイルス感染症の影響で休校が続き、これまでと状況が変わりましたので、一言付け加えさせていただきます。

コミュニティ・スクールの研究に関しては、各学校において2年目を迎えています。当初の予定では、コミュニティ・スクールがスタートする前の1年目は、準備期間として創り上げた形を直していくことなどを予定していましたが、今回の新型コロナウイルス感染

症対策について校長や園長と話し合う中で、今後、運動会などの様々な学校行事を実施するにあたり、できるだけ地域の皆さんの意見を聞きたいという意見が出ています。コミュニティ・スクールが動いていれば意見を聞きやすいのではと感じています。新型コロナウイルス感染症への対策も行っていかなければなりませんので、できれば来年あたりからコミュニティ・スクールをスタートできればと思っています。

中崎町長) コミュニティ・スクールを早めにスタートして、それから地域の意見を聞きながら学校における諸行事を進めていくということでしょうか。

野島教育長) コミュニティ・スクールの2年間の研究が終わり、その後に1年の余裕を持って正式にスタートするという計画もありますが、研究が終わりましたら速やかにスタートしまして、実施する中で地域の皆さんの意見を聞きながら進めていければと考えています。

中崎町長) 研究が終了した後に1年の期間を置くということには、どのような考えがあったのでしょうか。

野島教育長) 学校側では、スタートした時点でうまく進めることができるのかという不安があったからだと思います。私の考えとしては、研究が終わりましたらすぐにでも進めていければと考えています。

中崎町長) ただ今、野島教育長からスケジュールにこだわることなく、研究が終わり次第速やかに実施に移していきたいとのご意見がありましたが、他の皆さんはいかがでしょう。

長嶋教育委員) 野島教育長の発言にもありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により小中学校が休校となり、現在は分散登校から再開しています。そのような中で校内の消毒であるとか、登下校時の見守りにおける安全・安心などの面においては、地域の皆さんの力をお借りして現実的に動き出していますので、コミュニティ・スクールについてもできるだけ早く進めていっていただきたいと思います。

濱谷教育委員) 資料1は6つの視点から良くまとめられており、私たちが議論した内容も反映されています。ありがとうございます。先ほど野島教育長もご指摘されたように、コロナ禍の影響により学校行事などでコミュニティに関わっている面が多々あるということを私も気づきましたので、これが取りまとめられましたら早いうちにコミュニティ・スクールをスタートさせた方が良いと思っています。

中崎町長) 3人の方から意見をいただきました。いずれもコミュニティ・スクールを早めにスタートし、地域の皆さんの意見を聞きながらコロナ禍の状況などにおいても地域を挙げて

対応していこうとのことでありました。

資料1の内容は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。

《「異議なし」との声あり》

中崎町長） どうもありがとうございました。

それでは、資料1のとおり決定したいと思います。コミュニティ・スクールのスタートの時期については、皆さんの意見をしっかりと踏まえていただき、教育委員会においては今後のコミュニティ・スクールの研究・検討を進めていくということで、総合教育会議の意見・要望として教育委員会へお渡ししたいと思います。

中崎町長） それでは、協議事項（1）「コミュニティ・スクールの研究・検討に向けた取りまとめについて」は、終了させていただきます。

【協議事項（2） 小学校高学年における「教科担任制」の導入について】

中崎町長） 次に、協議事項（2）「小学校高学年における教科担任制の導入について」に移らせていただきます。

先ほどの事務局からの「令和2年度の総合教育会議の取組み」のところで説明がありましたが、小学校における新たな学習指導要領がスタートし、外国語教育やプログラミング教育が取り入れられたことにより教育内容の専門性が向上し、また、教員の働き方改革による負担の軽減なども十分に考慮した中で、文部科学省などにおいては小学校高学年における教科担任制の導入が検討されています。また、全国的に見ましても、専門的な教科における教科担任制が導入されつつあり、大磯町においても、交換授業という形で教科担任制が前向きに検討されています。このような状況を踏まえまして、皆さんには「小学校高学年における教科担任制の導入」について、率直なご意見をいただければと思います。

なお、皆さんも気にされていることだとは思いますが、新学習指導要領に「プログラミング教育」が取り入れられたこと、また、この度の新型コロナウイルス感染症の拡大防止による「オンライン授業」への対応を踏まえ、ICT（情報通信技術）環境の整備にも積極的に取り組まなければなりません。その点は、町においては十分ではありませんが、国が進める「GIGAスクール構想」により、パソコン等のハード整備などについて、現在、準備を進めているところです。少し関連することですのでこの場をお借りしてご報告させていただきます。このGIGAスクール構想については、町議会へも説明させていただいており、予算的な面もありますが、できるだけ早い時期に実現していきたいと考えています。

少し余談になりましたが、小学校高学年における教科担任制の導入について、ご意見をお伺いします。

曾田教育長職務代理） 皆さんご承知のとおり、今年の1月末からあつという間に新型コロナウ

ウイルス感染症が拡大しまして、世界中がすっかり変わってきたのではないかと感じています。学校についてもそうですし、社会全体が変化し、あるいは人生に対する考え方など、生活のあらゆる場面においても様々な変化が出てきています。私もこれからどのようにすれば良いのかということを考えているところです。この問題はすぐに解決するものではありませんので、今後、何が起こるのか心配しています。

今、私が考えていることは、若い人の生き方が少しずつ変わってきているのではないかとということです。暫くするともう少しはっきりと現れてくると思っていますが、これから子どもたちはどのようにしていくべきかということを経々に考えていくことになると思います。いろいろと考えていますが、少し前まで学校の先生は非常に人気が高い職業であり、しかもやりがいも希望もあり、なかなか就ける職業ではありませんでした。ところがここ数年では、先生を希望する人数が減ってきており不思議に思っています。そのような中、中央教育審議会の方針においては、2022年度（令和4年度）を目途に小学校高学年における教科担任制の導入という話が出てきたことは、先生方の働き方改革を含めて良いことであると考えています。授業の質の向上や児童の学力の向上など、多くのメリットがあると思っています。先進の自治体においては、既に2005年（平成17年）から2006年（平成18年）にかけて導入されていると聞いていますが、ここには大きな問題があるということ認識しておかなければならないと思っています。

今年度、文部科学省においては約2,090人の教員を増員する計画を立てていますが、その一方で日本の人口は減り続けており、このことが今後の日本の教育に影響を与えるのではないかと考えています。先日の令和2年6月6日の新聞の朝刊には、各社が日本における合計特殊出生率を取り上げ、今後4年間は「1.36」という数値で推移するということが掲載されており、これが2100年まで続くのではないとも言われています。そうなりますと果たしてこの人口減少による少子化に対応できるのかということが問題ですし、当然働く世代の人口も減少していきますし、日本全体がそのような状況にあります。

少し話が変わりますが、私はこの町に関わりを持って7年か8年が経っていますが、たまたま縁がありまして、高来神社の山神輿の担ぎ手を探してほしいという話をいただきまして、それから毎年、東海大学の柔道部の学生30人前後に声を掛け協力をお願いしているところです。ところが、この町の幼稚園を見ますと200人から250人前後の園児がおり、毎年、小学校に入学していく訳です。そのようなことを考えますと、この町に青年がいないとは思っていませんが、町の行事などを見ていると、そこに青年の姿が見えないことは果たしてどういうことなのかということを考え、悩んでいるところです。

この町に青年が見えないということが、小学校高学年の教科担任制に重なることではありませんが、最近の4年から5年は青年の姿が見えないということが続いています。青年がいないという訳ではなく、町の行事などに参加してこない。仕事が忙しいことは理解していますが、もう少し参加者がいても良いのかと考えています。これも今後、考えていかなければならない課題に含まれていると思います。このような悩みを持っている者がいるということをおっしゃっていただきました。

小学校高学年における教科担任制にはメリットとデメリットがある訳ですが、それは後ほど発言させていただくこととしまして、私たちは中学校から教科担任制を経験していますが、今後は児童も教員も様々な負担が生じてくることが予想されますので、メリットを生かしながら早めに導入することを検討していただきたいと考えています。

中崎町長) 現在の大磯町における一般的なお話をいただきましたが、小学校高学年の教科担任制についても早い段階から子どもたちのために、より専門性の高い教科内容を導入すべきであるというご意見でした。

長嶋教育委員) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月から休校となり6月からようやく分散登校が始まり、現場の先生はたいへん苦勞され創意工夫をして対応していただいていると感じています。先日、国府小学校の給食の授業に参加させていただき、終了後に先生方の話を聞く機会がありました。その中で、新型コロナウイルス感染症の影響には、メリットもあるという話がありました。児童がこれまで以上に素直に行儀良く、授業で話を聞いているとのことでした。また、通常半分の人数でたいへんですが教えやすいという意見もありました。子どもたちは、新型コロナウイルス感染症の危機感というものを、家庭における親御さんのテレワークを見たり、手洗いやうがいをすることにより、自分自身でしっかりと考え、素直になるという雰囲気があるのではないかと感じました。先般の給食の授業では、これまでの隣同士の机を付けておしゃべりしながら楽しく食べるというものではなく、一人ひとりが前を向いて静かに行儀良く給食を味わって食べていました。これは昔から日本にある伝統的な良い面でもあり、このような価値観などもしっかりと教えていければと思いました。

このような中で、来年度から中学校の新しい教科書が採択されます。中学生になると授業が細分化され科目も非常に多くなります。それを考えますと小学校と中学校とのギャップが大きくなることが懸念されます。私立の学校では小中一貫教育なども進められていますが、大磯町は大磯地区と国府地区の2地区にそれぞれ1校ずつ小中学校がありますので、その小中学校をつなげる組織の立上げや、大磯の中でフレキシブルに、いかに小学校高学年と中学校をつなげていくかという新しい発想を持って進めても良いのではないかと思います。

そのような中で、小学校高学年における教科担任制については、先生の数を増やさなければならず、先生方の負担が増える部分もやはりたいへんであるとは思いますが、現場の先生方の働き方改革や先生方の質の向上にもつながっていきますので、基本的には進めてほしいと考えています。

中崎町長) ただ今、先生の負担が増えるという話がありましたが、小学校高学年で教科担任制を導入した場合、受ける側の児童の準備というものは必要なのでしょうか。

野島教育長) 小学校においては、この4月から新しい学習指導要領がスタートしましたが、2年前から小学5年生と6年生で英語が教科化されており、大磯町の場合は、英語には教科担任制を取り入れています。また、英語に限らず音楽、理科、図画工作、家庭科においては、既に半分近く教科担任制を取り入れていますので、子どもたちは慣れていると思います。

長嶋教育委員) 将来的には、中学校の専門の先生が小学校の教科を受け持ち、子どもたちに教えるということがあっても良いと思っています。

中崎町長) 教える側の先生と受ける側である児童との間に、問題がなく十分に準備ができていれば、早い時期に様々なことを学んでいくことは良いことであると思います。ちなみに算数には教科担任制は導入されていないのでしょうか。

野島教育長) 導入することは可能です。ただし、中学校の先生が小学校で教える場合には自分の専門の教科を教えることはできますが、小学校の教員免許を持っていないので学級担任を持つことができないという問題があります。先ほど長嶋教育委員が発言されたように、小中一貫校であるとか義務教育学校という形を取れば、このような問題がうまく解消できると考えています。

トリー教育委員) 小学校高学年における教科担任制については、基本的には賛成で早期に導入していけたら良いと考えています。ただし、昔とは違って時代が変わってきていますので、特に外国語教育やプログラミング教育がスタートしたことは、たいへん大きいと思います。小学校高学年では実験や観察、また、調査や見学など、どうしても専門性が高い授業になっていきます。そうなりますと免許を持っているとは言え、先生によっては得手不得手があると思いますので、少しでも高度に専門的な授業を取り入れ中学校にスムーズに移行するという意味では、やはり積極的に導入すべきであると考えています。

自宅で子どもの話を聞いてみましたが、小学校高学年ではすべての教科が教科担任制でも問題ないのではないかと考えていました。もっと言えば、国府小学校では小学4年生でも交換授業を行っていますので、4年生ぐらいから段階的に先行研究という形で推し進めても良いのではないかと考えています。ただし、デメリットとしては授業が不足した場合のやり繰りという点で、教科担任制とした場合はどのように対応するのかという現場での課題が残ります。また、全国的に教員を増員することになりますと、いかに質や専門性の高い教員を配置できるのかという問題も出てくると考えています。

また、先ほど長嶋教育委員が発言されたように、中学校の先生の協力をいただき、自分の専門教科だけでも中学校に近い小学6年生に教えるなど、方法はいろいろあると思います。2022年度(令和4年度)まで時間がありますので、先行的に様々な研究を重ねながら良い形で導入していただければと考えています。

中崎町長) 既に国府小学校では交換授業が行われており、大磯小学校はこれから進めていくということですが、両小学校において違いというものはあるのでしょうか。

野島教育長) 各学校長が教育指導要領の範囲の中で進めていますので、大きな違いはないと思います。

濱谷教育委員) 結論から申し上げますと、正解はないと思っています。学級担任制も良いし教科担任制も良いというのが私の答えです。それでは会議になりませんので、私がこれまで実践してきたことをいくつか紹介させていただきます。

私が現役の時には、小学生と中学生をお預かりしていた訳ですが、道徳の授業の中で「中学生になった君たちへ」というプリントを渡しまして1時間の授業を行いました。その授業の視点は、まず1点は、小学校では担任の先生がすべての授業を教え、中学生になったら教科の先生が教える。2点目は、半ズボンが長ズボンになる、シャンプーが自分専用になる、あるいは、施設の入場料が大人の料金になるということをお話します。また、小学校では先生が1から10まで教えてくれるが、中学校ではそこまで教えてくれないなど、このような視点で話を進めていきます。この授業の結論としては、いじめ問題を考えることにつながっていきます。みんながやっているからやってもいい、誰かが止めればみんなが止めていく。そこで自分も止めれば、それは他の大勢の人たちと同じことをしていることになり、それは昔の言葉では卑怯者と言うのだよと結論付けることになる訳ですが、この中でいくつかの質問をします。「小学校と中学校における大きな違いは、どのようなところにありますか」という質問に対して、多くの子どもたちは、「小学校では1人の先生がすべての教科を教えてくれるところから、中学校では一つひとつの教科を違う先生に教えてもらうことになるので、勉強がたいへんだ。だから一生懸命勉強を頑張るんだ」と答えています。そこで、1人の先生がすべての教科を教えてくれたかどうかを子どもたちに聞きますと、1クラス30名のうち10名程度でしたので、おそらく2割から3割の学校で1人の先生がすべての教科を教えている状況ではないかと推測しています。その一方で、専門の教科である理科、算数、図工、音楽などは専門の先生が教えている学校が約半分ということです。このような状況を見ますと、小学校高学年で既に教科担任制によって教えている小学校が増えてきている状況にあります。文部科学省が目指している2022年の小学校高学年における教科担任制の導入を、先行して実施している小学校が多いということを感じました。子どもたちの反応を聞きますと、「専門の先生に教えてもらった方が楽しかった」、「理科は実験を豊富に行ってくれた」、また、これは横浜市から通学している児童であったと思いますが、「算数はある一定の分野になると、専門の先生が教えてくれる」というような話をしてくれました。このように不得意な分野を専門の先生が補って、児童に分かりやすく教えている学校もあるようです。また、音楽の場合は、学校によってピアノや歌、他の楽器を学ばせようという学校の特色があると、専門の先生が教える学校もあるようです。

そのような話を聞きますと、他の教育委員の発言にもありましたように、子どもたちの発達段階を考え、社会環境の変化を考え、また、先生方が大学で学んできた教職課程を考えますと、やはり教科担任制へ移行していった方が良いのではないかと思います。しかし、すべての教科が教科担任制に移行するというのではなく、発達途上の児童ですので、授業の中で一人ひとり丁寧に観察し把握していかなければならないという意味で、担任の先生が少なくとも3教科は教えるべきであると思います。子どもたちをしっかりと捉え、児童と担任の先生の信頼関係を構築していくという視点では、学級担任制も必要であると考えています。

事務局の説明では、大磯小学校と国府小学校では既に交換授業が検討、実施されているとのことですが、たいへん良い取組みであると思います。実施方法は分かりませんが、1学年に4クラスあれば4人の担任の先生が、それぞれの先生が持っている専門の教科をある一定の時間帯だけ他のクラスで教えるという方法で実践しているのではないかと想像しています。このように工夫をして、まずは交換授業から教科担任制へ移行していくことが良いと思います。それが難しいならば、教科の一部分を交換していくことも可能であると思っています。また、交換授業については、「道徳」において実施できるのではないかと考えています。道徳の場合には複数のクラスを横並びに教えることができませんので、道徳の授業で先生方が他のクラスを教えることで、複数の目で子どもたちを観察することができますので、今後、このような取組みもできればと考えています。交換授業は他のクラスを教えることによって、自分が担任するクラスを振り返ることもできますし、貴重な情報を得る場ともなります。

コミュニティ・スクールとの関わりでお話するならば、教科担任制で行う授業を保護者や地域の皆さんに授業参観で観ていただくことも、新しいコミュニティ・スクールの在り方であると思います。このようなことを大磯町の小学校が取り組んでいるであるとか、教科担任制を部分的に取り入れることで良いことがあるということ、保護者の方々に分かってもらえるのではないかと考えています。

最後に、先ほど長嶋教育委員も発言されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う分散登校により、1クラスのキャパシティが15人程度になっています。いろいろと話を聞く中で、少人数というものは子どもたちにとっては良いことであると感じました。通常授業に戻りますと1クラス30人程度になる訳ですが、先生方が子どもたちを観察する目も違って来るであろうし、子どもたちの学校生活における動きや行動も変わってくるであろうと思います。我々昭和の時代の者からすると、1クラス60人から70人でもそれが当たり前で、それほど授業も騒がしくなく、授業崩壊もありませんでした。根拠はありませんが、35人から40人ぐらいのクラスが授業崩壊の起きるサイズではないかと推測しています。15人では授業崩壊はほとんど起きないのではないかと考えています。

広い視点で発言させていただきました。結論としては、学級担任制と教科担任制に正解はありません。それぞれのメリットとデメリットを踏まえたうえで、適切な選択をしていただきたいと思います。

中崎町長) 濱谷教育委員の経験も踏まえた中で、ご意見をいただきました。

野島教育長) 教科担任制については、いろいろな形で実践されていますが、すべてを教科担任制にするのか一部で実施していくのかという実務的な課題もあります。これまでも中一ギャップということが問題となっており、小学校と中学校との差が大き過ぎて、そのことが不登校などの原因になっていると言われていています。教科担任制を導入することによって、少しでも小学校と中学校の段差を減らすという意味でメリットがあると思っています。また、校舎を一緒にするという事は別としまして、小中一貫教育を考えた場合、大磯町は同じ幼稚園から小学校、中学校と進級してきますので、コミュニティ・スクールとも関連しますが、「大磯町でどのような子どもを育てたいのか」ということを考えながら、大磯地区においても国府地区においても、コミュニティ・スクールの研究を進めています。その研究の中では、大きな目標を掲げて、幼稚園から中学校まで一貫性を持って進めていこうとしています。そこに教科担任制が必要になると思っていますし、専門性の高い教科には教科担任制がうまく導入されれば良いと考えています。また、教員の働き方改革という観点からですが、今年度から正式にスタートした「英語」については、今年度に採用された先生は、当然に英語も教えるということが前提で教員採用試験を受けて採用されていますが、それ以外の先生方は、子どもたちに満足いく授業ができていないのか不安を感じるなど、英語の授業に四苦八苦していると聞いています。そうなりますと専門の先生が必要であり、既に大磯町では専門の先生にお任せしています。教員の働き方を考えましても、先生の得意な分野でその先生の持ち味を生かすという意味でも、理科や音楽、また、体育で教科担任制を取り入れている学校もあります。音楽に関しては10年、20年前から教科担任制を導入している学校も多くあります。

今後は、小中一貫教育の流れであるとか、コミュニティ・スクールの流れを合わせた中で、学校現場の人的な配置の関係もありますので、そのようなことも考慮した中で小学校高学年の教科担任制を進めていく必要があると考えています。

中崎町長) 教育委員の皆さんからご意見をいただきました。本日は、様々な観点から自由なご意見をいただいていますので、この他にご意見があればお願いします。

濱谷教育委員) 教科担任制と学級担任制を考える場合には、やはり児童の立場に立たなければなりません。例えば、コロナ禍にあって、大磯町の小学校や中学校は今後どうしていくのか。文化祭や、体育祭や運動会をどうしていくのかということが話し合われると思います。国の基準は緩和されつつありますが、子どもたちの立場に立つと、文化祭や体育祭はやりたいたし修学旅行にも行きたいと思います。子どもたちがそのように思うからこそ、工夫を施して実施するべきであると思っています。3密の回避といった議論は当然に出てくるとは思いますが、子どもたちが成長していく中で、仲間と喧嘩をしながら、文句を言いながら

一緒に創り上げ、それらの課題をクリアしていくことが、子どもたちの成長段階では必要であると考えています。教科担任制になれば多くの先生の手で指導ができますし、一人ひとりの良さを伸ばすこともできます。このような視点で議論をしていただきたいと思います。確かに専門教科ですので内容がだんだんと高度になっていくことにはなりますが、教科担任制を導入すれば、多くの先生の手で子どもたちを見ることができますので、自然と子どもたちの自主性や自立性によって学力を向上させていこうというように変わってくるのではないかと考えています。

中崎町長) 濱谷教育委員は、学校の現場で子どもたちを教育されていますが、今のお話の中で教科担任制においても学級担任制と同じ視点を持って、子どもたちを観察して把握していくことができ、指導することができるということだと思いますが、野島教育長はいかがでしょう。

野島教育長) 1人の子どもをいろいろな先生が関わって見ることで、様々な指導方法が生まれてくるというメリットがあります。また、教員の専門性も生かすことができますので、どの段階でどのように取り入れていくのかということが、今後の教科担任制の導入のポイントになるのではないかと考えています。いずれにしても、子どものためにどのように進めるのかということを考えることが、いちばん大切であると思います。

曾田教育長職務代理) 先ほど国府小学校の給食の授業のお話がありましたが、私たちが訪れた時は学校再開から4日目ぐらいでして、先生たちも子どもたちも「会えて良かった」という感動の気持ちが漂っており、本当に会えて良かったという気持ちが伝わってきました。1年生は当然に戸惑いがあるように見受けられましたが、先生を見てますとベテランの先生も若い先生も、同じように戸惑いを感じているようでした。その時、ある先生とお話をする機会がありました。その先生は体育の専門でしたが、「なかなか思うようにいかなくて困っています」という話をしていました。それを聞きまして、小学校の先生はいろいろな教科を教えなければならないし、これから悩みも出てくるのではないのかと感じました。そのような状況でしたので、これからまだ時間が掛かるであろうと心配もありましたが、先生と子どもたちの喜びの姿を拝見して嬉しく思ったところです。

長嶋教育委員) 私も同感で、あまり知識だけを教えるのではなく、バランス良く育てていかなければならないと思っています。決まったことを理解するだけでは変化に対応することはできなくなります。変化に対応できるような心や感性を育てることも必要であり、そのためにも多くの先生の手で見て観察することで、バランスを持って進めていけたらと思っています。

トーリー教育委員) ベテランの先生が新任の先生をしっかりと支えるという働き方改革の観点

から、教科担任制にはメリットがあると思います。また、子どもたち一人ひとりが理解力も違いますし教え方も違ってくると思いますので、教科担任制によっていろいろな先生が教えるにしても、どこまできめ細かく子どもたちを見ていけるかということが重要であると思います。教科担任の先生だけではなく、学年のすべての先生がワンチームとなって取り組んでいかなければならないと思っています。そこに大磯らしさをうまく出して、子どもたちを温かく包み込めるような教育を進められたら良いと思っています。

また、先ほど濱谷教育委員からお話があった学校行事に関してですが、大磯中学校では、修学旅行が6月下旬に2泊3日で予定されていましたが、東京方面に1泊2日で令和3年2月頃に予定されているようです。体育祭と文化祭については、2つを合わせた形で実施するようで、現場の先生もいろいろと考えているようです。子どもたちには可哀そうなところがありますが、3密の回避などの防止対策を取るなどして、何とか実施できるようにしてあげられたらと思っています。

中崎町長) まとめさせていただきますと、皆さんから学問のみならず、人間性や感性も育てていく必要であるという意味を含めて、分かりやすい形で教科担任制を進めていくべきであるというご意見であったと思っています。野島教育長はいかがでしょう。

野島教育長) 大磯町では、既に大磯小学校と国府小学校で交換授業を実施あるいは検討していますので、学校現場での子どもたちの反応を見て、うまく彼らの反応をくみ取りながら教科担任制の良いところを取り入れながら進めていければと考えています。

中崎町長) 会議の冒頭に野島教育長から新型コロナウイルス感染症に関してのお話をいただきました。私も挨拶の中で触れましたが、新型コロナウイルス感染症は従来の感染症とは変わってきています。これまでの感染症とは違うという中で、子どもたちが素直になったというご意見もありましたし、物事をしっかりと落ち着いて考えるようになってきているという面もあります。町でも教育委員会においても、どのような方法で教育を進めていく必要があるのかということを考えています。野島教育長はいかがでしょう。

野島教育長) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い「新しい生活様式」というものが提唱されており、新しい授業の形態として「GIGAスクール構想」を進めているところです。

濱谷教育委員) 最後に「GIGAスクール構想」について少し話をさせていただきます。GIGAスクール構想については、町長からも教育長からもお話がありました。また、教育委員会からも話を聞いています。国では、GIGAスクール構想を前倒しして取り組むこととしていますので、小中学校でオンライン授業ができるように、ぜひとも前向きに押し進めていただきたいということを教育委員としてお願いさせていただきます。

中崎町長) それは教育委員の皆さんの総意であろうと思います。

それでは、小学校高学年における教科担任制の導入については、前向きに時を待たずに進めていくというご意見をいただきました。また、導入にあたっては、子どもたちの人間性を考慮することが大切であるという新たなご意見もいただきましたので、本日いただきましたご意見やご提案につきましては、事務局が整理しまして次回の総合教育会議において報告させていただき、進めさせていただきます。

ここで、協議事項(2)「小学校高学年における教科担任制の導入について」は終了させていただきます。

それでは、一旦、進行を事務局にお返しします。

【協議事項(3) 児童生徒の事故等の状況について】

※ 協議事項「(3) 児童生徒の事故等の状況について」は非公開にて協議を行ったため、議事録を削除しています。

政策係長) 中崎町長、ありがとうございました。

それでは、非公開の協議事項が終了しましたので、傍聴される方がおりましたら、ここで入室させていただきます。

《傍聴者入室なし》

政策係長) それでは、「4. その他」に移らせていただきます。委員の皆さんから何かありますでしょうか。ないようでしたら、事務局から1点、ご連絡させていただきます。

政策課長) それでは、今後の予定をお知らせします。

次回の会議につきましては、10月から11月頃に開催を予定しています。本日の皆さんからのお考えやご意見を整理しまして、次回改めて協議していただく予定です。日程等の詳細につきましては、後日調整させていただきます。

以上です。

政策係長) それでは、これをもちまして令和2年度第1回大磯町総合教育会議を終了いたします。

本日は長時間に亘り、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

(以上)